

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	明野町立大村小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	2	2	3	14	22
児童数	69	52	63	36	52	52	10	334	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力を身に付け、生き生きと学ぶ児童の育成 - 楽しく、分かる授業を目指して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

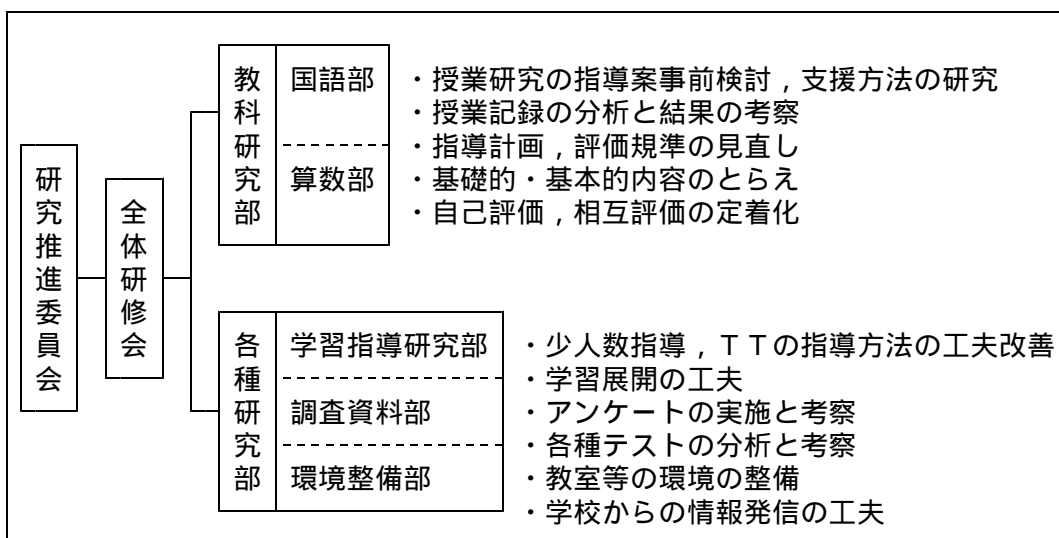
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～6年生・国語 「学力診断のためのテスト」で読解力不足がうかがえ、言語事項の定着が不十分であるため。 ・ 1～6年生・算数 児童の理解度に差が出やすいこととや算数のTTにおける授業が8年間継続していることと少人数指導(習熟度別)を実施するため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 確かな学力の定着を図るための指導方法・指導体制の工夫改善 研究の見通し 少人数指導やTTなどを取り入れた指導方法・指導体制を工夫し、きめ細かな指導をする。 研究の内容・方法 ・ 均等割, 習熟度別, 課題別, 学習方法別コースの実施 ・ 一斉指導, グループ学習, 学年TT, 学級TTの工夫 ・ VT, SVの協力 ・ 幼小中連携による授業研究
--------	---

平成16年度	テーマ 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 研究の見通し 発展的な学習や補足的な学習の教材を取り入れた少人数指導・TTなどの指導方法・指導体制を工夫し、きめ細かな指導をする。 研究の内容・方法 ・ 均等割, 習熟度別, 課題別, 学習方法別コースの実施 ・ 一斉指導, グループ学習, 学年TT, 学級TTの工夫 ・ VT, SVの協力 ・ 幼小中連携による授業研究 ・ 発展的な学習や補足的な学習の教材の作成 ・ 年間計画, 評価規準の見直し
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 児童の変容 国語(2年) 【調査人員 50名】

学期	単元名	国語への関心・意欲・態度 グループの友達と協力して原稿を書き、紙芝居などで表現したり、他のグループの発表のよさを見つけていたりしている。	話す・聞く能力		書く能力		言語についての知識・理解・技能 ひらがな、カタカナや漢字を正しく使って文を書いている。
			発表原稿をもとに、1年生に分かるように、句読点に気を付けてはっきりと話している。また、友達の発表もまともりや順序に気を付けて聞いている。	相手に分かるように、順序を気を付けて原稿を書き、推敲している。	相手に分かるように、順序を気を付けて原稿を書き、推敲している。	相手に分かるように、順序を気を付けて原稿を書き、推敲している。	
1学期	たんけんで見つけたひみつを1年生に伝えよう。	A	16	19	17	22	
		B	27	24	26	19	
		C	7	7	7	9	
2学期	大村ちきゅうランド～1年生におもちゃの作り方を教えよう～	A	23	26	23	27	
		B	22	21	22	18	
		C	5	3	5	5	

単位 人

- 評価規準をもとに評価した観点別評価について、1学期と2学期の単元で比較すると全観点ともAの人数が増えCの人数が減った。
- Cの児童にはヒントカードなどを用意し個に応じた指導をしたため、Bになった児童が増えた。
- 発展的な学習も取り入れたのでB、Aの児童もさらに向上した。
- 児童へのアンケート結果から全員が意欲的に取り組み、人前で話すことや書くことなどが好きになってきた児童が増えてきた。

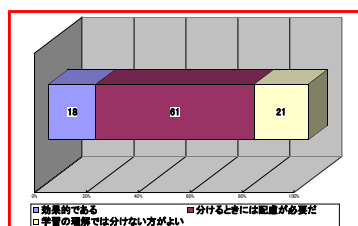
項目	はい	いいえ
①順序を表す言葉を使って原稿を書けるようになりましたか。	47	3
②1年生に分かるように大きな声でゆっくり発表できるようになりましたか。	42	8
③体験作文を自分で進んで書くようになりましたか。	44	6

(2) 習熟度別学習への保護者の意識調査(平成15年12月実施)

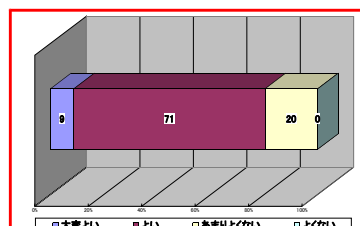
学習の理解の程度によって、学級を分けることをどうお考えですか。

算数で理解度の確認テストをもとにコースを作って実施しましたが、そのことについてどう思いますか。

【全学年保護者293名】



【6年保護者46名】



- ・保護者全体では、習熟度別学習に対して、児童が優越感や劣等感をもつのではないかと危惧を感じているが、習熟度別学習を実施した6年保護者は、その良さを感じ取っている。
- ・習熟度別学習の効果について、児童が学習の様子を家庭で話したり、保護者が実際に授業を参観したり、学校便りによる報告、フロンティアティーチャーがホームページで紹介したりしたことにより、児童が意欲的に取り組んでいることや学力が向上していることについての理解が深まってきている。

2. 今後の課題

幼小の連携では低学年担任が相互授業研究をしたり、6年がボランティア体験で幼稚園との交流を図ったり、小中間でも中学校の教諭が6年の国語で小学校で必要な文法の学習をTTで行ったり、授業研究などをしたが、学力向上につながる連携をさらに進めていく。

発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材も増えつつあるがさらに開発していく。

研究の成果の普及についてさらに工夫をしていく。

学力等把握のための学校としての取組

目的 児童の実態把握

- 内容
- ・授業の理解度
 - ・好きな教科
 - ・TTや少人数指導について
 - ・授業が分からないときの対処法
 - ・1日の勉強時間
 - ・家庭学習について
 - ・1日の読書時間

時期 学期に1回

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

茨城県県西地区協議会でのフロンティアスクールによる公開授業及び協議

日時 平成15年11月12日(水)

場所 明野町立大村小学校

対象 県西地区内の小中学校及び保護者、県内フロンティアスクール

研究のあゆみ、学習の手引きの作成

平成15年度の研究についてのHPを作成

- ・研究の概要
- ・授業研究の指導案
- ・中間発表会用の指導案
- ・全体会用のプレゼンテーション

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | |
|----------------------|----------------------------------|-----------------------|--------------------------------|
| 【新規校・継続校】 | レ 15年度からの新規校 | レ 14年度からの継続校 | |
| 【学校規模】 | レ 6学級以下
レ 13～18学級
レ 25学級以上 | レ 7～12学級
レ 19～24学級 | |
| 【指導体制】 | レ 少人数指導
レ 一部教科担任制 | レ T・Tによる指導
レ その他 | |
| 【研究教科】 | レ 国語
レ 生活
レ 体育 | レ 社会
レ 音楽
レ その他 | レ 算数
レ 図画工作
レ 理科
レ 家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | レ 有 | レ 無 | |